

大分大学医学部小児科が目指す「次世代につなぐ小児科学研究・診療・教育」 Ver.1.0

大分大学医学部小児科学講座 教授 井原健二

大分大学医学部小児科の成長戦略として「三本の矢」を公約に掲げます。

【第一の矢：若手小児科医の発掘と育成】

1. 医学生へのメッセージ

大分大学医学部学生に小児科の魅力を積極的にアピールします。小児科診療の魅力は、内科と同じく幅広い専門分野、そして成長と発達の時間軸で急性期から慢性期まで広く長く子どもを見守ることができる唯一の診療科であることです。学問的な魅力にも溢れており分子遺伝学・臨床疫学から再生医療まで、今後も大いに発展が見込まれる学術領域です。職業としても、勤務医、開業医、教育者、研究者、行政職、福祉関係など広い職種から自分に合った仕事を選ぶことができます。

2. 若手小児科医の育成

小児科後期研修 3 年間は大分大学とその関連病院の診療教育体制のもと、中規模医局ならではのマンツーマン式寺子屋教育により、総合医師としての小児科専門医を育成します。小児科専門医資格を取得した後は、さらに専門分野の研修（小児神経科専門医、新生児科専門医、臨床遺伝専門医など）のために、学内専門医研修あるいは国内の専門施設へ国内研修なども積極的に取り入れています。

3. チームワークとリーダーシップ

協調性と独立心のある小児科医が自由な雰囲気活躍できる医局であり続けたいと思います。スポーツやリクリエーションも含め、心の通う医局運営が大分大学医学部小児科の最大の魅力の一つです。

4. 大分県のバックアップ

大分県下の病院で勤務する若手小児科医には行政からの手厚いサポートがあります。2 年間毎月 15 万円の奨学金のほか、1 年間 600 万円の国内外の研修費が支給されます。

【第二の矢：ネットワークの構築】

1. 小児医療ネットワークの構築

大分県は 7 つの医療圏が設定されていますが、それぞれの地域の子どものためのホームドクターである小児科医会の先

生方との連携が不可欠です。大分市内の急患センターや大分県内の乳幼児健診、急性疾患患者の病診連携など多岐にわたり緊密な連携を図ります。

2. 大分県内の基幹病院の小児科・産婦人科・小児外科との連携

大分県内には、中核・地域小児科センターとして6施設、また地域振興小児科候補病院8施設が設定されています。病院間のネットワークは専門性が必要な重症患者さんの診療には不可欠であるとともに、若手医師教育にも極めて重要です。

3. 九州地区の大学小児科・小児専門病院との連携、大分大学内のネットワーク構築

大分県の枠を超えて九州内の大学や病院、また大学内の関連診療科との密な連携のもと、高度医療を支える大学病院としての役割を担います。大分大学病院に設置された遺伝子診療室は、大分県内の遺伝医療の中核として医療連携を担いながら、臨床遺伝専門医の専門研修認定施設として遺伝教育にも取り組みます。

【第三の矢：小児科の特性を生かした医学臨床研究の推進】

1. 小児科の診療領域ごとに具体的なテーマを設定し、幅広い小児疾患の分子遺伝学研究・電気生理学・病理学研究を推進します。
2. 大分全域の小児保健を継続的に支援してきた背景を基に、大規模コホート研究を進める素地があります。大分県ならではのユニークな臨床研究を目指します。
3. 大分大学全学研究推進機構の機器分析部門、実験実習機器部門、動物実験部門などの高度精密分析機器と最新の解析システムのサポートを受けながら、学内の基礎系講座と連携した小児医学研究を進めます。